

自然現象の学びを基礎とした高等学校における防災教育の現状と課題

宮崎亮太¹⁾、森永速男²⁾

1) 学会会員 人と防災未来センター ryota0706.birdwatching@hotmail.com

2) 学会会員 森永速男 兵庫県立大学大学院減災復興政策研究科、morinaga@drg.u-hyogo.ac.jp

1. 研究背景と目的

1.1 防災リテラシーとして「地球の営み」を理解することの重要性

相手を知らずして、その相手とどう向き合い、どう備えるのだろうか。「自然災害」の場合の相手とは「自然現象」である。別の言い方をすると、私たち人類に豊かな生活をもたらす「地球の営み」となるが、その負の側面が「自然災害」と言えるだろう。正しく自然災害に備えるためには、自然からの恩恵や負の側面となる現象（災害メカニズム）を正しく理解することが重要である。災害メカニズムの理解は、災害時に適切に行動し、想定外の事態から身を守るために重要な知識や技能（防災リテラシー）の一つであると考えられる。

1.2 本研究の目的

防災リテラシーの獲得やそれに基づく実践が大切と考える意識、すなわち防災意識を醸成するためには、学校での防災教育が重要である。特に、災害メカニズムの理解においては高等学校における地学や地理の教育が重要となると考えられる。本研究では、高等学校における現行の地学・地理教育が防災リテラシーの修得や防災意識の醸成や定着につながっているかを、大学生向けに行ったアンケート調査に基づいて分析した。また、その分析結果から、防災リテラシーの修得や防災意識の醸成において何がそれらの阻害要素であり、その解決のために何が必要なのかを考察し、高等学校における地学・地理教育を通じての防災教育のあり方を提案する。

2. 調査研究手法-アンケート調査の概要と対象

アンケートの対象は、兵庫県立大学全学共通教育科目「地球の営みと災害」（防災リテラシー修得を目指し、防災意識向上をもくろんだ地学の講義、半期15コマ開講）の受講生で、開講時のアンケートには314名が、最終講義後アンケートには302名の学生が答えている。受講生の所属学部は図1に示す通りで、約9割が理系の学部である工学部か理学部である。これらの受講生のうち、高等学校時代に地学と地理を両方もしくはどちらかを履修していたのは約8割であった（図2）。また、履修しなかった理由として、「授業がなかった」や「受験科目ではない」という、受講生の興味や関心とは無縁な理由を挙げている学生が多くなっている（図3）。

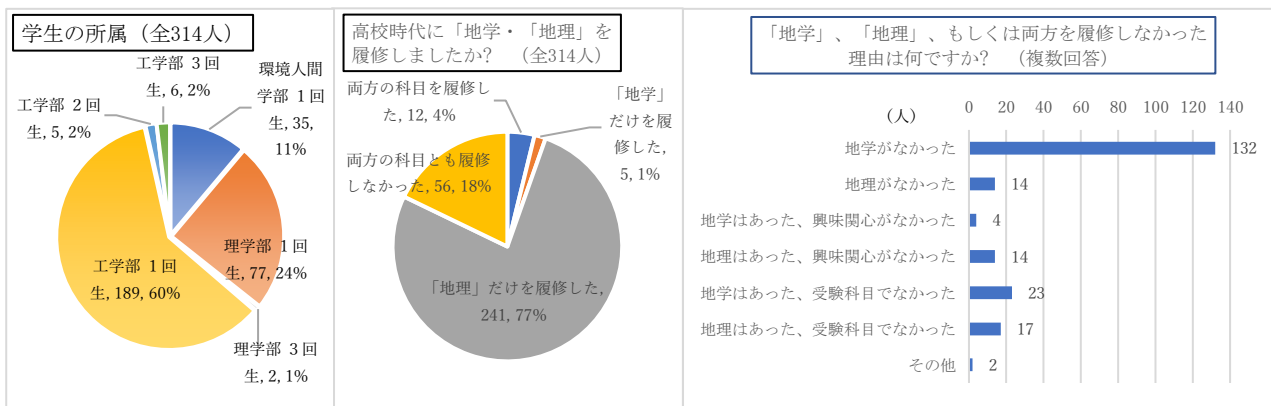


図1 受講生の所属と学年

図2 受講生の履修状況

図3 履修しなかった理由

3. アンケート結果と考察-地学・地理の履修と防災意識の関係

(開講時-受講前のアンケート結果)

「高校時代に地学・地理を履修したことで、災害への備えにつながりましたか?」という問いに対しては、「いいえ」と回答した学生が67%であり、履修したが災害への備えにつながらなかった学生の方が圧倒的に多い(図4の左)。次に、「地学・地理を履修したことで、どのような備え・対策をしたのか?」という質問に対しては、「国内外の

災害に関心を持つようになった」、「防災・減災を意識するようになった」との回答が多く見受けられる(図4の右上)。一方で、「履修したが、災害の備え・対策につがらなかった理由」として、「防災に関する内容が含まれなかった」、「授業内容から防災の重要性を感じなかった」との回答が多くあった(図4の右下)。

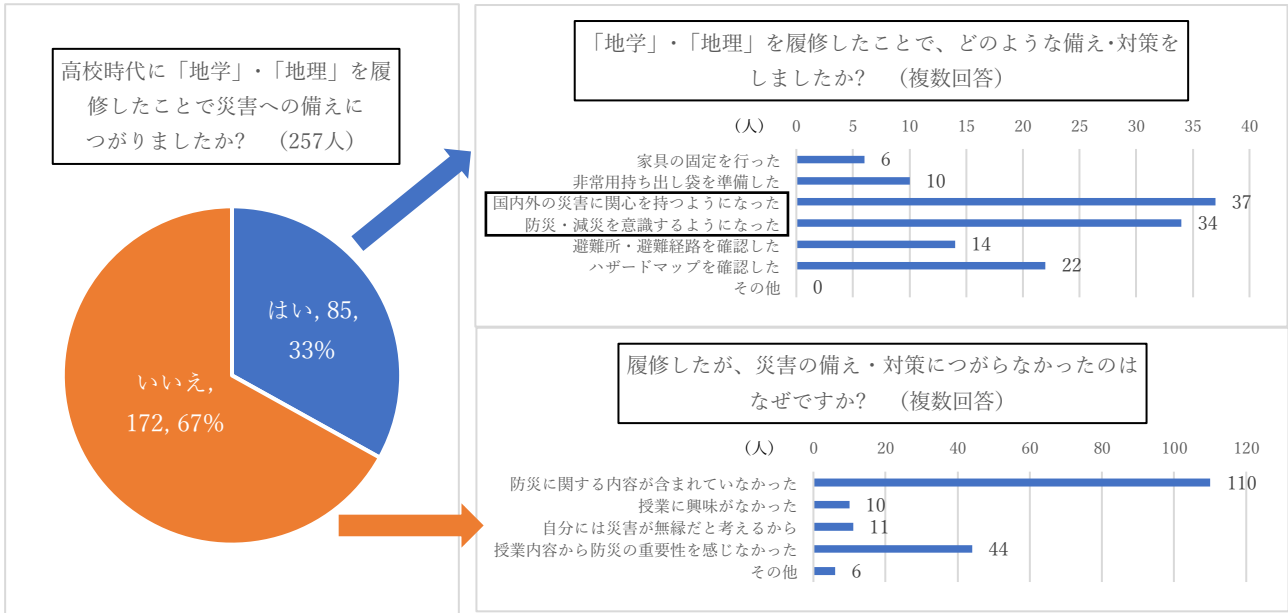


図4 「地学」や「地理」の履修の有無による防災意識への影響

(最終講義後のアンケート結果)

「地球の営みと災害」の最終講義後に尋ねたアンケート結果では、「受講前に防災への関心や意識を持っていましたか?」という問いに対して、49%の学生が「はい」と回答している。また、「講義を受講して、災害への備えにつがりましたか?」という問いに対しては、「はい」と回答した学生が95%に上った。この講義を受講したことによって防災意識の向上が見られる。次に「受講したことで、どのような災害への備え・対策をしましたか?」という問いでは、「防災・減災を意識するようになった」、「国内外の災害に関心を持つようになった」などといった回答の割合が多く、「家具の固定を行なった」や「非常用持ち出し袋を準備した」といった「防災に関する具体的で技術的な対応」から「より広範な、災害や防災についての俯瞰的な情報への意識・興味・関心」につながっていると考えられる。

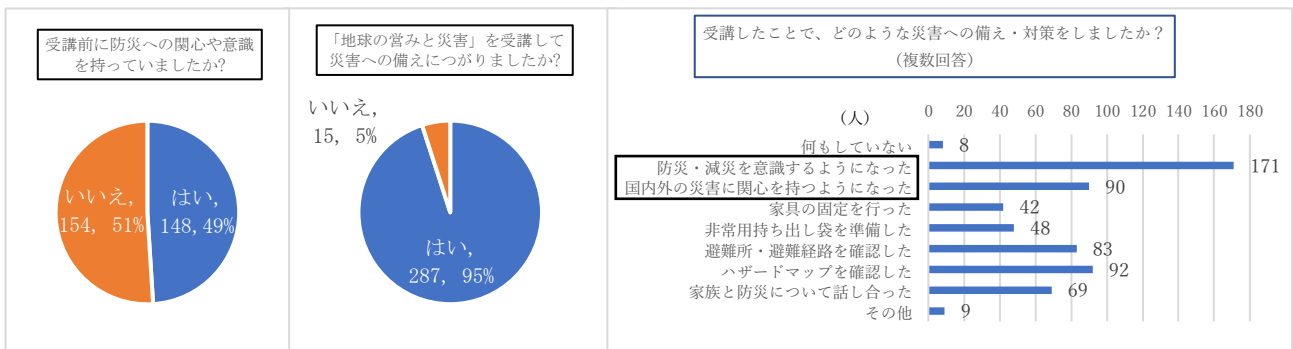


図5 大学での防災関連講義受講前後の意識

図6 受講したことでおこなった備えと対策

4. まとめ

以上で示したように、地学・地理の学びは防災リテラシーの修得と防災意識の醸成に有効であると考えられる。また、教える側が地学・地理教育の中に、災害メカニズムと共に防災の観点を含め、災害に備えることの重要性を積極的に伝えることで、生徒の防災リテラシー修得の意欲を向上させ、防災意識を醸成できる可能性があると考えられる。そのために、まずは教える側が地学・地理教育を通して防災意識を醸成することの重要性に気付き、「我がこと意識」と熱意を持って取り組むことが重要となる。ここで示したアンケート結果から直接読み取ることはできないが、生徒の「我がこと意識」を育てるためには、教育が展開される地域に特有の自然環境とそれに関連する災害の情報を含むカスタマイズされた教材の開発が必要である。さらに、大学入試制度の変更などを通じて生徒の地学・地理の履修機会の拡大を目指すなど、教育行政の早急な対応が、災害大国日本における防災対策の一つとして重要と考える。